

平成19年度 事業報告書

自 平成19年1月1日
至 平成19年12月31日

財団法人 河北文化事業団

1. 事業の報告

(1) 主催事業

(イ) 第56回（平成18年度）河北文化賞の贈呈

東北の学術、芸術、体育、産業、社会活動の各分野で顕著な業績を上げた個人、団体に贈る第56回河北文化賞は、東北6県から推挙を受けた計55件の中から4件の授賞を決定した。贈呈式は平成19年1月17日、仙台市の仙台国際ホテル「平成の間」で、東北各県各界の代表約350人の列席を得て行った。

受賞者と業績は次の通り。

「赤外レーザー医療装置の根幹技術の先駆的研究とその開発・実用化」

東北大名誉教授・仙台電波高専校長 宮城 光信

「第七十七回都市対抗野球大会で初優勝、東北勢初の快挙」

TDK硬式野球部

「『あ・ら・伊達な道の駅』を経営し、

地域住民にやりがいと活力を与えた功績」

池月道の駅

「三十年にわたり、仙台圏の地域医療支援に貢献」

仙台市医療センター仙台オープン病院

贈呈式では、一力一夫理事長が受賞者の業績を紹介し、「今後も東北の文化向上、発展のために努力され、河北文化賞の意義をより深いものにしていただきたい」とあいさつ。金成有造常務理事が審査経過を報告し、一力理事長から受賞者に本賞（賞牌）と副賞100万円ずつが贈られた。この後、文化史家・前仙台市博物館館長 濱田直嗣氏が「松島瑞巖寺と伊達政宗—造営四百年を前に—」と題して記念講演を行った。引き続き茶話会に移り、各推挙者から受賞者それぞれの人柄や業績の紹介があり、盛会のうちに幕を閉じた。

(ロ) 第71回河北美術展の開催

河北新報社との共催で第71回河北美術展を4月27日から5月9日まで、

仙台市の藤崎本館 7 階催事場で開催した。

わが国最大の地方公募展として歴史、規模を誇る同展は、東北における美術文化の向上に大きな役割を果たしており、中央画壇にも数多くの人材を輩出している。71回展には日本画、洋画、彫刻の3部門に、東北 6 県はもとより全国各地から1174点（前回1201点）の応募が寄せられた。

展覧会には、厳しい審査で選ばれた入賞31点と入選393点、さらに、71回展審査員、顧問、招待作家の作品61点の計485点が展示され、連日多くの美術ファンでにぎわった。

最高賞の河北賞は、日本画＝福田喜美子（茨城県つくば市）、洋画＝川井雅樹（茨城県日立市）、彫刻＝結城照男（山形県天童市）の各氏、文部科学大臣賞は、洋画＝其田マサ氏（仙台市泉区）が受賞した。

審査は、日本画＝那波多目功一（院展）、福田千恵（日展）、洋画＝中山忠彦（日展）、絹谷幸二（独立美術協会）、佐々木豊（国画会）、彫刻＝山本正道（新制作協会）の各氏が行った。

本展終了後、大崎市、栗原市、宮城県利府町で巡回展を開催、好評を博した。

(iv) 若鷲旗争奪第36回東北中学校野球大会兼第29回全国中学校軟式野球大会東北予選会の開催

東北中学校体育連盟、東北野球連盟、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会との共催で、第36回東北中学校野球大会を第29回全国中学校軟式野球大会の東北予選会を兼ねて8月7日から9日までの3日間、仙台市のフルスタ宮城と市民球場を会場に開催した。

東北各県から稻垣、弘前大付、（青森）、花泉、西南（岩手）矢本二、河南西（宮城）、羽城、男鹿南（秋田）、上山北、酒田三（山形）、内郷一、矢吹（福島）の計12チームが出場、熱戦を繰り広げた。

決勝は羽城と上山北の対戦となり、羽城が6-2で初優勝を飾り、若鷲旗を手にした。両チームは東北代表として秋田市で開かれた全国大会に出場したが、ともに1回戦で敗れた。

(二) 第54回河北書道展の開催

東北書道界の最高峰を誇る第54回河北書道展を河北新報社との共催で、8月9日から14日までの6日間、藤崎本館7階催事場で開催した。

今回は東北各県から会友、一般合わせて1035点（前回1038点）の応募があった。部門別の応募状況は、第1部（漢字）223点、第2部（かな）91点、第3部（墨象）155点、第4部（近代詩文）231点、第5部（少字）85点、第6部（篆刻・刻字）93点、第7部（漢字一行書）157点。

高橋孤舟審査委員長以下41人の審査員が厳選かつ慎重な審査を行った結果、入賞16点、特選92点、準特選55点、入選662点が決まった。

河北賞は、第1部＝松木梅香（仙台市若林区）、第2部＝鈴木恵久子（石巻市）、第3部＝藤原紅雲（宮城県色麻町）、第4部＝高野博行（仙台市宮城野区）、第5部＝海上敦子（仙台市宮城野区）、第6部＝遊佐聖心（栗原市）各氏。第7部は該当がなかった。

展覧会には、入賞、入選作品と審査員、招待、委嘱作家の作品合わせて981点を展示、訪れる書道ファンを楽しませた。本展終了後、大崎市で巡回展を開催し、好評を得た。

(三) 第51回全東北ピアノコンクールの開催

東北放送、東北放送文化事業団との共催による第51回全東北ピアノコンクールの本選会を7月1日、仙台市の若林区文化センターで開催した。

今回は東北6県にゆかりのある53人が参加し、うち予選を通過した8人が本選に出場。審査の結果、常磐木学園高等学校3年渡邊真司さん（岩沼市）が第1位に輝き、文部科学大臣奨励賞を受賞した。

このコンクールは、東北の音楽文化の振興をはかるとともに、若手演奏家を育てようと昭和32年にスタートした。以来、51回を数え、この間、多くの優れたピアニストを中央楽壇に送り出すなど、大きな成果を上げている。

(四) 第16回河北工芸展の開催

河北新報社、宮城県文化振興財団との共催で、第16回河北工芸展を10

月16日から21日までの6日間、仙台市のさくら野百貨店仙台店8階催し物会場で開催した。

同展は東北の工芸美術の振興と発展を目的に、平成4年に創設。今回は東北在住・出身者から393点（前回372点）の応募があった。

酒井田柿右衛門（日本工芸会）、並木恒延（現代工芸美術家協会）、井隼慶人（日本新工芸家連盟）の3氏が審査に当たり、入賞16点、入選246点を選んだ。

最高賞の河北賞は陶磁の高橋美枝子氏（仙台市若林区）が受賞した。

展覧会場には、入賞、入選作に審査員、顧問、招待作家の作品30点を加えた292点が展示され、連日多くの工芸ファンが詰め掛けた。

(ト) 第15回三笠宮杯ツール・ド・とうほくの開催

日本自転車競技連盟との共催で、8月16日から19日までの4日間、第15回三笠宮杯ツール・ド・とうほくを秋田県大潟村、岩手県紫波町、仙台市の3会場を舞台に、男子高校生部門と、女子部門の2つのカテゴリーで実施した。

大会は、道路事情や警備問題など競技環境が年々厳しくなっていることに加え、自転車競技の普及振興、道路事情の整備など所期の目的がほぼ達成されたこともあり、今回をもって終了した。

男子高校生部門には、北海道ブロック代表・北海道尚志学園高校、東北ブロック青森県代表・青森県高体連選抜、同岩手県代表・岩手県高体連選抜、同宮城県代表・東北高校、同秋田県代表・秋田県高体連選抜、同山形県代表・山形県高体連選抜、同福島県代表・福島県立平工業高校、関東ブロック代表・関東高体連選抜、北信越ブロック代表・北信越高体連選抜、東海ブロック代表・東海高体連選抜、近畿ブロック代表・近畿高体連選抜、中国ブロック代表・岡山工業高校、四国ブロック代表・四国高体連選抜、九州ブロック代表・九州高体連選抜の14チームが、女子部門には、J C Fチーム、V O L C AオードビーB O M A、G S・キヨ・ミヤザワ、北海道札幌女子選抜、鹿屋体育大学、高体連女子選抜、

Team MarkM、なるしまフレンドの8チームが参加し、それぞれ熱戦を繰り広げた。

最終日の宮城ステージでは仙台市との共催で、選手と一般の自転車愛好家102人によるパレード走行「エコライド2007イン仙台」を実施した。

結果は、男子高校生団体総合で近畿高体連選抜が連覇、女子団体総合ではJCFチームが6連覇を果たした。また、男子高校生個人総合は入部正太朗選手（近畿ブロック代表・近畿高体連選抜）、女子個人総合は豊岡英子選手（JCFチーム）がそれぞれ優勝した。男子高校生の部の成績優秀者3人を9月にイタリアで開催された「ジロ・デ・バジリカータ」に派遣した。

三笠宮杯をいただくこのロードレースは、昭和27年に始まった東北一周自転車競走大会がルーツ。大会は47年に東北自転車競技選手権大会、49年に東北地域自転車道路競走選手権大会と名称を変えて継続された。

平成5年から現在の大会名に変更され、日本自転車振興会の助成を受け、当初は実業団、大学、高校、女子の各カテゴリーからなるステージレースとして実施。10年以降は全国高体連自転車競技専門部の協力を得て、男子高校生の部を東北ブロックの対抗戦から全国大会に拡大した。ツール・ド・とうほくとして15回、第1回東北一周自転車競走大会から通算すると56回を数えた。

(2) 協力事業

宮城県芸術協会、河北新報社などが主催する第44回宮城県芸術祭に協力し、優秀な成績を収めた12人に本団から奨励賞を交付した。

受賞者は、絵画部=小川和子、相澤一夫、佐藤美栄子、書道部=佐々木鳳堂、畠山青風、宮崎礼子、奈須野青蘭、伊勢一枝、工芸部=島見美由紀、写真部=梅津聰、杉幸子、文芸部=唐木浩子の各氏。

2. 処務の概要

(1) 役員に関する事項

(平成19年12月末日)

役職	氏名	手当	現職	就任年月日
理事長	一力一夫	なし	河北新報社取締役会長	昭36・3・30
常務理事	金成有造	〃	河北新報社事業局長	平18・4・1
理事	梅原克彦	〃	仙台市長	平17・8・22
〃	永野為光	〃	東北放送代表取締役社長	平17・4・1
〃	高倉健	〃	宮城県芸術協会顧問	平10・6・1
〃	吉田定道	〃	東北民放クラブ理事長	平13・3・17
〃	久道茂	〃	東北大学名誉教授	平16・4・1
監事	佐藤久内	〃	仙台銀行相談役	平11・12・14
〃	岡崎智政	〃	河北新報社常務取締役	平19・6・27
評議員	一力雅彦	〃	河北新報社代表取締役社長	平9・4・1
〃	一力邦夫	〃	河北新報社顧問	平10・4・1
〃	森健一	〃	河北新報社常務取締役	平16・4・1
〃	宍戸実	〃	河北新報社常務取締役	平17・4・1
〃	永野為和	〃	河北新報社取締役	平17・4・1
〃	上野卓哉	〃	東北放送相談役	平17・4・1
〃	村井嘉浩	〃	宮城県知事	平17・11・21
〃	佐藤雄平	〃	福島県知事	平18・11・13
〃	達増拓也	〃	岩手県知事	平19・4・30
〃	三村申吾	〃	青森県知事	平15・7・1
〃	寺田典城	〃	秋田県知事	平9・4・1
〃	斎藤弘	〃	山形県知事	平17・2・14
〃	井上明久	〃	東北大学総長	平18・11・6
〃	星宮望	〃	東北学院学院長	平19・4・1
〃	吉崎泰博	〃	宮城学院女子大学学長	平17・4・1
〃	幕田圭一	〃	東北経済連合会会长	平17・5・18
〃	佐々木義昭	〃	宮城県教育委員会教育長	平18・4・1
〃	佐藤憲一	〃	仙台市博物館館長	平13・5・31
〃	久保勝美	〃	宮城陸上競技協会顧問	平3・8・1
〃	渡辺雄彦	〃	宮城県芸術協会顧問	平10・5・21

(2) 職員に関する事項

職務	氏名	就任年月日	担当	手当	
事務局長	谷 藤 仁 史	平18・4・1	統括	なし	河北新報社事業部長
職 員	高 橋 敦	平18・4・1	〃	〃	河北新報社事業局事業部副部長
〃	山 田 淳	平19・4・1	〃	〃	〃
〃	菊 池 かおる	平16・4・1	〃	〃	河北新報社事業局事業部
〃	小 番 浩 憲	平19・4・1	〃	〃	〃

(3) 役員会に関する事項

(イ) 理事会

開催月日	議事事項	会議の結果
2月17日	議題 1. 平成18年度事業報告書案承認の件 2. 平成18年度収支計算書案承認の件	原案通り承認可決 〃
4月16日	議題 1. 評議員交代の件	原案通り承認可決
5月21日	議題 1. 評議員交代の件	原案通り承認可決
11月22日	議題 1. 評議員交代の件	原案通り承認可決
12月22日	議題 1. 平成20年度事業計画書案承認の件 2. 平成20年度収支予算書案承認の件 3. 第57回河北文化賞贈呈の件 4. その他	原案通り承認可決 〃 〃 4.

(ロ) 評議員会

開催月日	議事事項	会議の結果
2月17日	議題 1. 平成18年度事業報告書案承認の件 2. 平成18年度収支計算書案承認の件	原案通り承認可決 〃
6月28日	議題 1. 監事交代の件	原案通り承認可決
12月22日	議題 1. 平成20年度事業計画書案承認の件 2. 平成20年度収支予算書案承認の件	原案通り承認可決 〃

3. 第57回河北文化賞贈呈の件

原案通り承認可決

4. その他

- | | |
|----------------------|------|
| (4) 許可、認可および承認に関する事項 | 該当なし |
| (5) 契約に関する事項 | 該当なし |
| (6) 寄附に関する事項 | 該当なし |
| (7) 主務官庁指示に関する事項 | 該当なし |